



第 144 回 多可町定例記者会見

令和 4 年 3 月 24 日（木）午後 1 時 30 分～
多可町役場 大会議室

1. 町長あいさつ

2. 案 件

◆記者発表事項

(1) 多可町に明るい希望を与えた 5 名に功績を讃える . . . P. 1
かがやき多可賞授与式

(2) 素敵なお庭、公開します . . . P. 2
多可オープンガーデン 2022

(3) 健康課より . . . P. 3
多可町集団接種の終了と個別接種の開始について

(4) ベルディーホールより . . . P. 4
「レスキュー ～ある消防団員の長い長い一日～」
弓張美季ピアノリサイタル 2022

◆その他の機関

(5) 地域商社 RAKU、地域おこし協力隊黒川隊員より . . . P. 6
マルシェ×写真展「ミツマル」開催

3. 質 疑

4. 次回のお知らせ

◆第 145 回多可町定例記者会見

と き 令和 4 年 4 月 20 日（水） 午後 1 時 30 分～
ところ 多可町役場 401 会議室
問合先 企画秘書課 TEL (32) 2381

多可町政 記者発表資料

提 出 日	担 当 課・係	担 当 者 名	連 絡 先
令和4年3月24日	企画秘書課	谷尾 諭	0795-32-2381 (内線 303)

事業(行事)名

かがやき多可賞授与式

日 時(開催期間)

令和4年3月30日(水) 午後7時00分～

場 所

多可町役場 大会議室

趣旨または目的

多可町民に明るい希望と活力を与えたと認められる個人や団体に対しその功績を讃え「かがやき多可賞」を贈る。

内 容

多可町では、スポーツ、文化、芸術、福祉その他の分野において、優れた成績や善行等によって、町民に明るい希望と活力を与えたと認められる個人または団体に対して「かがやき多可賞」を贈り、その功績を讃えることとしています(令和2年度開始)。今回は、下記の5名の皆さんに、かがやき多可賞をお贈りします。

- (1) 吉田 捷世(よしだ はやせ)さん 加美中学校3年生
令和3年10月7日の下校途中で道ばたにうずくまる老人男性を介護し
近隣住民に助けを求め救命救急に貢献
- (2) 酒井 綾麻(さかい りょうま)さん 加美中学校3年生
令和3年10月7日の下校途中で道ばたにうずくまる老人男性を介護し
近隣住民に助けを求め救命救急に貢献
- (3) 横山 卓哉(よこやま たくや)さん 八千代中学校3年生
三田ラグビークラブジュニア所属
第27回全国ジュニア・ラグビーフットボール大会出場
- (4) 竹村 陸(たけむら りく)さん 24歳(社会人)
日本生命保険互助会社所属
第46回社会人野球日本選手権出場
- (5) 祐尾 昌和(ゆうお まさかず)さん 43歳(社会人)
兵庫サッカークラブ所属
JFA 第9回全国日本0-40 サッカー大会出場

参考資料など

多可町政 記者発表資料

提 出 日	担 当 課・係	担 当 者 名	連 絡 先
令和4年3月24日	商工観光課 (多可町観光交流協会事務局)	小林 弥生	0795-32-4779 (内線)

事 業（行 事）名

多可オープンガーデン 2022 開催

日 時（開催期間）

多可オープンガーデン開催期間：4月中旬から5月下旬ごろまで

※各庭で公開日を設定しています。

場 所

多可オープンガーデン 2022 に参加の 23 か所の庭の内 19 か所の庭を公開

趣旨または目的

多可町観光交流協会が主催するもので、花を通して、人と人との交流を深め、潤いのある暮らしと美しいまちづくりにつながっていくことをめざします。

また、ガーデンを観光の地域資源とし、町外からの観光交流人口を増やしていきます。

内 容

オープンガーデンの庭主さんが丹精込めて育てられた花や木を植えられた庭を、一定の期間オープンにし、皆さんに見ていただくもので、その庭の種類はいろいろあり、ハーブ、バラ、山野草、木、盆栽など四季折々の花を植えられています。

各庭の公開日や見頃は、A3 版ガイドマップで確認できます。

また、多可町観光交流協会ホームページで各庭情報を掲載しています。

多可町観光交流協会 HP <https://kanko.takacho.net/>

参考資料など

- ・多可オープンガーデン 2022 ガイドマップ

多可町政 記者発表資料

提 出 日	担 当 課・係	担 当 者 名	連 絡 先
令和4年3月24日	健康課	課長 勝岡 由美	0795-32-5121

事業（行事）名		
多可町集団接種の終了と個別接種の開始について		
日時（開催期間）		
場 所		
趣旨または目的		
多可町における新型コロナワクチン接種について、現在の今後の接種方法等をお知らせする。		
内 容		
多可町は、2月16日（水）から多可町文化会館（ベルディーホール）にて行ってきた新型コロナワクチン追加（3回目）の集団接種を、3月21日（月）に終了しました。		
21日終了時点の接種率は、次のとおりです。		
・全体 60.2%		
・高齢者 89.5%		
※R3.1.1の住民基本台帳の数字から算出		
今後、4月からは町内8カ所の協力医療機関で個別接種を開始し、引き続き希望する方が接種できる体制を整えます。		
個別接種の詳細は、町ホームページをご覧ください。多可町コールセンターにお問合せください。		
【個別接種を行う医療機関】		
《中区》	《加美区》	《八千代区》
・多可赤十字病院	・町立松井庄診療所	・多可町国民健康保険
・矢持医院	・町立杉原谷診療所	八千代診療所
・近藤内科消化器科医院		
・山本医院		
・おひさまにこにこクリニック		
【多可町コールセンター】		
（電話番号）0795-32-5670		
（受付時間）平日の9時～17時		
参考資料など		

多可町政 記者発表資料

提 出 日	担 当 課・係	担 当 者 名	連 絡 先
令和4年3月24日	生涯学習課 文化会館	小西 貴士	0795-32-1300

事業（行事）名 ベルディーホール自主公演事業 演劇セミナー発表公演「レスキュー ～ある消防団員の長い長い一日～」
日時（開催期間） 令和4年4月17日（日）開演 正午～／午後3時30分～ （2回公演）
場 所 多可町文化会館 ベルディーホール
趣旨または目的 演劇セミナーは「舞台演劇を鑑賞するだけでなく、地域の方々にもステージにたち、表現する魅力と楽しさを体験してほしい」との想いで、平成8年から始まり、今回が24作品目となります。 公募で集まった演劇セミナー生が約1ヶ月の稽古を経て、発表公演の舞台に立ちます。 今回の参加者は20名、年齢は9歳から61歳までの方に参加していただきます。
内 容 （チケット料金）一般：1,500円 高校生以下：500円（当日500円増） 全席自由 未就学児無料 （作・演出）大塚雅史 （監修）多可町消防団 ストーリー 消防団員の夫と読み聞かせ活動を行う妻の物語。 消防操法大会の日が迫るなか、町をおそう未曾有の豪雨がおこる。 妻は読み聞かせの公演開始時間を迎えようとしているが、会場は急遽、住民の避難所となる。 また、豪雨のため、川は氾濫し、崖崩れも起きている。 消防団員として町の住民を救おうと活動する夫と、読み聞かせ公演を行おうとする妻。 そんな夫婦のとある一日をドキュメントタッチで描くドラマ。
参考資料など 演劇セミナー発表公演チラシ

多可町政 記者発表資料

提 出 日	担 当 課・係	担 当 者 名	連 絡 先
令和4年3月24日	生涯学習課 文化会館	翁田 友子	0795-32-1300

事 業 (行 事) 名

‘22 住民企画自主公演事業
弓張美季ピアノリサイタル2022

日 時 (開催期間)

公演：令和4年4月10日（日） 午後2時～
(1回公演・開場 午後1時30分)

場 所

多可町文化会館 ベルディーホール

趣旨または目的

弓張美季のピアノリサイタルの開催

内 容

チケット料金：一般 2,000 円 高校生以下 1,000 円（全席自由）（当日 500 円増）

2年半ぶりに迎える弓張美季の公演。

弓張美季氏は幼少期をドイツで過ごされ、数々の国に移り住み、多様な芸術と文化に触れながら、才能を培ってこられている。現在もドイツ、ベルリンを拠点に音楽活動を行っている。

当日の演奏プログラムは、モーツァルト：ピアノソナタやショパンの幻想即興曲、子犬のワルツなどを予定している。

参考資料など 弓張美季ピアノリサイタル チラシ

多可町政 記者発表資料

提 出 日	担 当 課・係	担 当 者 名	連 絡 先
令和4年3月24日	地域商社 RAKU 企画秘書課	小迫悠香（地域おこし協力隊） 黒川直樹（地域おこし協力隊）	0795-37-0699 （内線 ）

事業（行事）名

生産者と購入者を「密」につなぐマルシェ×写真展「ミツマル」開催

日 時（開催期間）

令和4年4月2日（土）～24日（日） 午前9時～午後5時

※水曜日休館

場 所

ラベンダーパーク多可

住所：多可町加美区轟799番地127

TEL：0795-36-1616

趣旨または目的

町内の特産品生産者と消費者をより密につなぐ場を創出し、消費者が安心、安全かつ高品質な特産品を深く知っていただき購入いただくことで健康状態や暮らしの質の向上に繋がることを期待し「ミツマル」を開催する。

また、地域おこし協力隊と地域商社 RAKU の官民ハイブリッドな組織を構築することで、より強く・広い販売網で特産品及び多可町を PR することを目的とする。

内 容

町内の6事業者へ取材を行い、特産品や生産者のこだわりの原材料や製法、技術を写真と記事にまとめ展示する。また、写真の展示と同時に特産品の販売も行う。写真にはキャプションボード QR コードを付け、取材記事はスマホで読んでいただく仕様となっている。

【取材に協力いただいた事業者】

- ①足立醸造株式会社：有機醤油を中心とした大豆・小麦の加工品
- ②山奥の菓子工房 Nature：洋菓子
- ③(株)AgLiBright/七代目藤岡農場：熟勢黒にんにく
- ④(株)加美鳥：播州百日どりと播州地卵
- ⑤みつばグループ：播州百日どりを使った加工品
- ⑥農場なつめやし：野菜(有機質資材で栽培/栽培期間中は農薬、化学肥料不使用)

参考資料など

「マルシェ×展示」資料

～多可町の地域商社 RAKU と地域おこし協力隊が初コラボ！～
生産者と購入者を「密」につなぐマルシェ×写真展「ミツマル」開催



主催



寺川敏博

地域商社 RAKU 代表、多可町地域おこし協力隊プロジェクトマネージャー、多可町地域おこし協力隊 OB



小迫遥香

地域おこし協力隊。地域商社 RAKU の運営支援（特産品担当）



黒川直樹

地域おこし協力隊。播州織技術と商工観光、地域情報の発信

▼期間

2022年4月2日(土) ～ 4月24日(日)

▼会場

ラベンダーパーク多可 研修室 ※入園・入場無料。水曜日休館。
〒679-1324
兵庫県多可郡多可町加美区轟 799-127
TEL 0795-36-1616

▼趣旨と構成

「ミツマル」は多可町の特産品販売と写真・取材記事を掛け合わせたイベントです。
会場では特産品を販売。同時に、特産品・生産者の組写真を展示します。
また、特産品・生産者の取材記事も作成。こちらは値札・展示用キャプションボード QR コードを掲載し、スマホで読んでいただく仕様です。



▼取材にご協力いただいた事業者と取材内容

今回、町内の 6 事業者を取材し、その特産品を販売します。

1 足立醸造株式会社：有機醤油を中心とした大豆・小麦の加工品

創業 1889 年(明治 22 年)の足立醸造。国内でも希少な木桶仕込みの醤油や有機大豆を使用した味噌などを生産しています。

世界的な有機製品ニーズの高まりと SDGs 志向に対応すべく、輸出向けの製品を増産。醤油蔵としては異例の費用をかけ、新蔵を建造しています。

ゆくゆくは有機製品 100%を達成すべく、事業を運営されているそうです。
そんな足立醸造に、有機原料へのこだわりや足立醸造独特の製法・生産体制、今後のビジョンを伺いました。

2 山奥の菓子工房 Nature：洋菓子

「お客さまに喜んでいただきたくて、果物や飾りを次々に乗せてしまう。クセなんです」と店長の今中雄一郎さん。

そんな今中さんが経営する Nature のショーウィンドウには、五感を楽しませるナチュラルな洋菓子がズラリ。

今回は、県産の小麦や厳選した生クリーム、多可町産の黒にんにくなど、こだわりの原材料をふんだんに使ったお菓子づくりやパティシエとしてのこだわり、多可町で菓子店を営む理由などを中心にインタビュー。

さらに 5 つの特産品について、詳しく解説いただきました。

3 (株)AgLiBright／七代目藤岡農場：熟成黒にんにく

「(株)AgLiBright(七代目藤岡農場)」のルーツは米作り。1828 年に創業した農家を元祖とし、現在にはんにくを始め、丹波黒大豆・枝豆、酒米の山田錦などを生産しています。

企業理念は「一人でも多くの方に最高の農産物を届け、最高の農産物から笑顔を生み、笑顔から幸せを創造し、皆様の未来づくりに貢献する」こと。

「最高の農産物は最高の『人』から生まれる」とし、「人づくり」や「地域活性化」にも力を入れています。

そんな七代目藤岡農場の代表、藤岡啓志郎さんにインタビュー。

看板商品『熟成黒にんにく 黒胡玉(こっこおう)』について詳しく伺いました。

さらに、学生時代に活性酸素や予防医学を勉強していた藤岡さんが農業を始めた経緯、「黒にんにくづくり」にまつわるストーリーもお話いただきました。

4 株式会社加美鳥：播州百日どりと播州地卵

多可町加美区のブランド鶏、播州百日どり。この飼育をされるのが石塚竜司さん(株式会社加美鳥)です。

石塚さんは 2021 年から播州地卵の事業を継承。抜群の健康状態で育つ、平飼いされた鶏の卵は卵白が甘く、卵黄が濃厚です。また、滋養・風味に富み、有名菓子店も材料に選ぶほど。

「養鶏と養卵、どちらもする農家は国内でも珍しい。この二つを掛け合わせ、事業展開をしていきたい」と話す石塚さんに、播州地卵のお話を中心にインタビューしました。

5 みつばグループ：播州百日どりを使った加工品

播州百日どりはもとより、「時期によっては鶏よりも高価」だという「ごぼう」など、材料・調味料にも徹底的にこだわるみつばグループ。

どの製品も手仕込み、手作りを厳格に守り、ことごと、ことごと、地元の女性が調理しています。

今回は代表の安藤松子さんに、みつばグループの誕生の経緯から事業・調理、そして加美区への思いをインタビュー。

さらに、名物「とりめしの具」など 6 つの特産品について、開発の経緯や材料の特長、おすすめの食べるシチュエーションを解説いただきました。

6 農場なつめやし：野菜(有機質資材で栽培/栽培期間中は農薬、化学肥料不使用)

祐尾智紗美さんは約 10 年間、世界をぐるりと歩いた旅人です。

「海外に行って、お金がなくなれば現地で働いて、それでもやりくりできなくなったら日本に戻ってバイト。貯めたお金でまた海外に行って」

そんな祐尾さんが旅先のいろんな農場で働いた経験や、その農家の家族・仲間と過ごした濃厚な生活から有機質の資材を使った野菜づくりに目覚め、生まれ育った多可町で立ち上げたのが「農場なつめやし」です。

今回、より詳しい事情をインタビュー。

足立醸造の醤油かすや播州百日どりの鶏ふん、多可町の山々から集められた落ち葉など、有機物質だけを使いながら農業ができる、この町の環境についても教えてもらいます。

▼「ミツマル」の 3 つの丸(メリット)

1. 消費者(来場者)が安心・安全、かつ高品質な品を深く知り、購入することで、健康状態や暮らしの質の向上が期待できる。
2. こだわりの原材料・製法・技術をもって特産品を生産する事業者と、コロナ禍・SDGs の時代に一つの潮流をつくる本物／本質志向の消費者が、より深い情報・コミュニケーションを媒介に、リアルで結ぶ場を創出する。
3. ながらく官と民で行ってきた特産品開発・販売事業に、地域商社 RAKU・地域おこし協力隊といった官民ハイブリッドな組織・個人が参画することで、三位一体となった連携を構築。より強く・広い販売網で特産品および町を PR する。